

華中工学院長 黄樹槐氏来学

ますますの研究協力体制を

一行は、松下電器、大阪大学溶接研、神戸製鋼、トヨタ自動車、名古屋大学、三菱電機、アイデンエンジニアリング、



李 勁 講師



夏巨謙 講師



梅世炎 講師



姚宗幹 教授



黄樹槐 教授

院長



発行所
日本工業大学
広 報 課
埼玉県南埼玉郡宮代町
郵便番号 345
電話 0480(34)4111

両校関係の展望



記念講演をする黄院長

次いで、華中工学院と本学との関係について、一九八三年以来、両校の関係がますます発展していること。相互訪問は相互理解に役立ち、

中国は政治、経済、教育が大きく変化した。教育面では高等教育のレベルアップ、新しい学科の設置、基本的知識の重視、従来の詰め込み方式の教育から創造能力教育への転換、大学と企業との共同研究、外国との交流など教育改革について述べられた。

講演テーマは「中国の高等教育の改革、日本工業大学と華中工学院両校の関係の展望」で、約一時間の講演であった。

一行は、午後、マイコン室など、学内の設備や施設を見学した。この間、情報技術センター長の石井治教授のもとで、「ロボットの制御と言語」の研究をしている林奕鴻講師と、システム工学科の長谷川洗教授のもとで、「重量の自動選別システムの開発」の研究をしている劉明光講師に会い、激励をした。

また、七月八日に再び来学し、黄樹槐教授と梅世炎講師、夏巨謙講師は、機械工学科会

姉妹のように友情が深まった。これからも、共同研究などを通じて、ますますの協力の拡大をはかりたい。そのことは、中国と日本との発展に寄与することにもなると述べられた。この記念講演には多数の本学教職員のほか、埼玉産学交流委員会も出席し、熱心に耳を傾けた。

ここには以前より鈴木昭助教授を中心として収集してきた貴重な工作機械を分類展示する予定になっている。その幾つかを、本学で複製したものを中心に紹介すると、《旧植原鉄工所》

東京の田町で明治の末から昭和の四十年代まで操業していた典型的な町工場を複製した。博物館設置準備室内に柱を建ててシャフトを渡し、ベルト掛旋盤を設置、他にもセーパー、鋸盤、グラインダー等、天井から下がっている裸電球にいたるまで当時の工場そのまゝの姿に再現している。《木製足踏み旋盤》

東工学園の創立八十周年記念事業である技術史研究棟新築第一期工事の地鎮祭が、六月十三日に工事中の安全を祈る厳粛な雰囲気で行われた。

当日は、東工から窪田理事、長、畑理事、小笠原校長、大が作ったものを、資料をもとに製作・複製した。直径二メートルのフライホイールを手動で回し、その動力を旋盤に伝えるもの。

これら機械は、ただ展示島津製作所の創業記念資料館に保存してある、ドイツ人ワグネルが持ってきたという旋盤の複製。

《手回し式動力装置》
明治二十二年ごろ池貝鉄工所の創立者である池貝庄太郎が作ったものを、資料をもとに製作・複製した。直径二メートルのフライホイールを手動で回し、その動力を旋盤に伝えるもの。

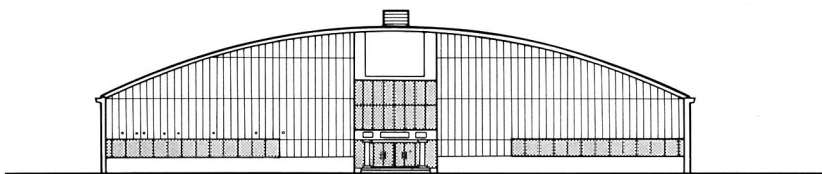
これら機械は、ただ展示島津製作所の創業記念資料館に保存してある、ドイツ人ワグネルが持ってきたという旋盤の複製。

《手回し式動力装置》
明治二十二年ごろ池貝鉄工所の創立者である池貝庄太郎が作ったものを、資料をもとに製作・複製した。直径二メートルのフライホイールを手動で回し、その動力を旋盤に伝えるもの。

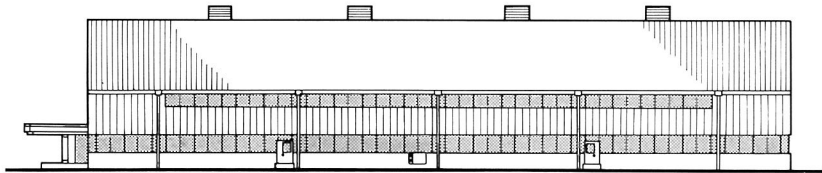
着工する!!

学園創立80周年記念事業 工業技術史研究棟 仮称 工業技術博物館

技術史研究棟 完成予想図



東立面図



北立面図

島津製作所の創業記念資料館に保存してある、ドイツ人ワグネルが持ってきたという旋盤の複製。

《手回し式動力装置》
明治二十二年ごろ池貝鉄工所の創立者である池貝庄太郎が作ったものを、資料をもとに製作・複製した。直径二メートルのフライホイールを手動で回し、その動力を旋盤に伝えるもの。

これら機械は、ただ展示島津製作所の創業記念資料館に保存してある、ドイツ人ワグネルが持ってきたという旋盤の複製。

〔継続分〕
☆永久歯の萌出と心身の発達
☆原子分子の寿命測定実験における自動解析システムの開発
☆プラズマ中の非線形波動の研究
☆DI製法による厚肉長円筒の製作
☆溶融溶接における溶融金属の流動機構と熱物質輸送の解明
☆二要素法による超音波流量計測法
☆ピストンクランク機構の振動測定装置の開発
☆局外水動力の回収利用に関する技術研究
☆溶融溶接における溶融池の物性とアーク、溶滴移行、溶するだけでなく、実際に動かして見ることが出来るものとして、大きな期待が寄せられている。

☆通気性セラミック型に関する研究
☆異方性Ca-La-Na系フェライト磁石
☆伝統工法における木造骨組接合部の強度性状
☆電子写真システムの開発と評価
☆攪拌槽内の追跡粒子位置のリモートセンシングに関する研究
☆レーザー加工に関する研究
☆二要素法による超音波流量計測法
☆ピストンクランク機構の振動測定装置の開発
☆局外水動力の回収利用に関する技術研究
☆溶融溶接における溶融池の物性とアーク、溶滴移行、溶するだけでなく、実際に動かして見ることが出来るものとして、大きな期待が寄せられている。

☆構造物接合部の耐震安全性に関する研究
☆江戸の都市計画に関する研究
☆ロボット視覚、触覚機能による知能化の向上
☆異種LAN接続におけるインターフェースプロセッサの研究
☆人工知能の研究
☆生産能力可変な生産系の研究
☆ダイヤモンドの合成II—合成速度の増加をめざして
☆コミュニケーションの試作
☆放電開始に必要な初期電子の生成に関する研究
☆風力エネルギー利用技術に関する研究
☆風力エネルギー利用技術に関する研究

☆総合病院の空気質に関する調査研究
☆コヒーレント光ファイバ通信系におけるモード干渉雑音の研究
☆省エネルギー自動車に関する研究
☆電解仕上げに関する研究
☆ドリル穴加工における振動解析
☆透光性セラミックMgOの作製
☆我が国鋼構造の発展過程に関する研究
☆伝統的な居住空間の研究
☆石膏を利用した建築部材の開発研究
☆木構造接合部の乾燥弛緩に関する実験的研究
☆鉄筋コンクリート造の耐久性に関する実験的研究
☆首都圏近郊農村の集落空間計画に関する基礎的研究
☆非線形最適化アルゴリズムの開発
☆オフラインによる機械と工具の干渉チェックシステムに関する研究

人事異動



丹治 明 (たんじ・あきら)

▽任用 (4・19付)
教育技術員・工業技術史研究棟(博物館)準備室
▽昇任 (5・1付)
渋谷龍美学生課員 学生部学生課主任に昇任

▽配置換 (5・1付)
京野晴郎教務課主任 学生部付就職指導室主任へ
野村隆就職指導室主任 教務課主任へ
川添恒次郎施設管理課員 総務部付へ
鈴木正庶務課員(印刷室) 施設管理課へ
大久保恵図書館事務課員 教務課へ
吉川寿子教務課員(電気工学科事務室) 教務課(教養科事務室)へ
初見範子教務課員 図書館事務課へ
山口有美教務課員 教務課(電気工学科事務室)へ

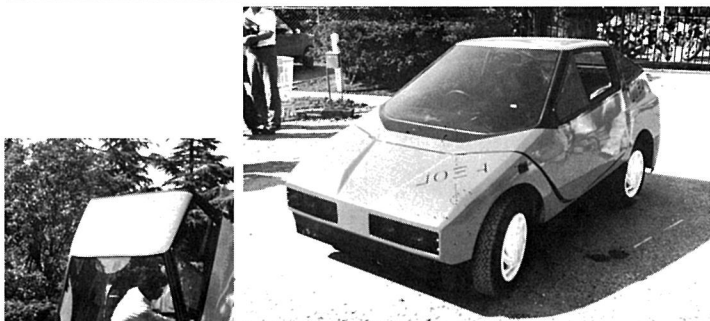
コンピューターカー完成 バンクーバー博に向けて出発

前号でもすでに紹介したが、カナダのバンクーバーで開かれる万博期間中に、自動車の「先進性」を競い合う催し、Innovative Vehicle Design Competitionに出展する、機械工学科小倉勝研究室の新型カーが、カナダに向けて船積みされた。車は六月十三日に芝浦埠頭から積出され、七月六日頃には、会場であるプリティッシュ・コロンビア大学に運び込まれる。

一方、小倉勝助教は七月八日に、岩瀬健樹（主浦工）桐越寛仁（本郷）松山繁（東京工）富田弘志（下館工）本滝一徳（平工）杉山一郎（東京工）の四年生六人は七月十日に、成田を出発、現地で合流し、最後の調整・打合せに入る。

なお、今回のカナダ行きには二人の卒業生が同行する。一人は以前からの計画に係わっている中山浩氏、それに鈴木恒夫氏である。

今度出品する小型・小排気



カナダ万博に
出品する
コンピューターカー完成

量の車は、名前を「ドクサー」と言い、ギリシャ語で「栄光」という意味だ。

競技は、経済性・動力性能等の総合的な観点からの「先進性」を競う。そのうえで、上位四位まで十萬ドルから二十五萬ドルまでの奨学金が出るといふ。

眠る間を惜しむという表現がピッタリの作業を長期間続けた結果である。大いに期待したい。

研究室では 28

建築材料研究室

工学の基礎をなすものは材料であることは、建築においても他の分野と同様であるけれども、その種類が極めて多岐にわたるのは建築材料のほかにないように思われる。硬い石や金属から軟かいわらやわた、時には空気までも扱う、それはまさに森羅万象を相手にするといった趣のものである。ある建築家が、「適材を適所に」とよく言うけれども建築材料には完全なものはない、これは大変にむずかしい技術で、多元多方程式を解き未知数すべてに適切な数値を入れれば建築は構成されない。不可解として済ますわけにはいかないのだ」と言っている。

今にして思えば、建築材料個々の物性研究が主流であっ

た頃に、材料と人間のかかわり合いを言い出した。今では全く当り前のことなのであるが、当時は変り者であったようである。この変り者の発想は今も当研究室の伝統となっていて、萌芽的研究（未だ十分に熟してはいないが、将来大きな振りが持つに相違ない先駆的なもの）に取り組みむという冒険心に満ちた気風が流れている。

二、三の研究を紹介しよう。卒業研究の学生の手によって成った実験家屋の床や壁内の温湿度状況を実測によって調べている。これは米国の移入された工法と比較しつつ床の耐久性を見ようとするものである。この米国の工法はツーパーフォー（Two-Part）工法という西部劇的な複雑な工法で、わが国在来の緻密なものの比すべくもない。

そこで日本古来の伝統的工法による継ぎ手・仕口の強度性について明らかにする見直しの研究を行っているわけである。

これは温故知新・古い物事を復習研究して、そこから新しい見解や知識を得るという論議の言葉のように、ふり返って学びとらえるものであるが、このことは次のような「絵巻物に見る中世建築の床の構成」「日光東照宮の唐木、彫刻紋様」の各研究にもつながるもので、先人の技術の再発見を通してその精神をもつかみ取ろうとするに他ならない。

当研究室所属の修士が「小舞（こまい）プラスター」の題目で、化学工業で大量に副産される石膏を、竹を用いた日本古来の小舞壁への応用を考え、その開発研究に取り組んでいるの

から発想によるのである。

一方、床と人間とのかかわり合いに関する研究では、すでに当研究室から、床のすべりや弾力性、硬軟などについて内外から注目される成果をあげている研究者が生まれ育ってきている。現在、社会的に問題にもなっている床の振動や階段の安全性についての研究を取りあげ、卒業研究のテーマとして興味深い実験を行っている。

以上述べたように、木造建築物の耐久性、新構法の開発、歴史的視点に立つ研究、各種材料とその工法等々、当研究室で取り上げるテーマは巾が広い。しかも何れもオリジナリティを強く求められるものであり、研究室をあげて日夜研鑽に余念がないといったところである。

（教授・吉岡 丹）

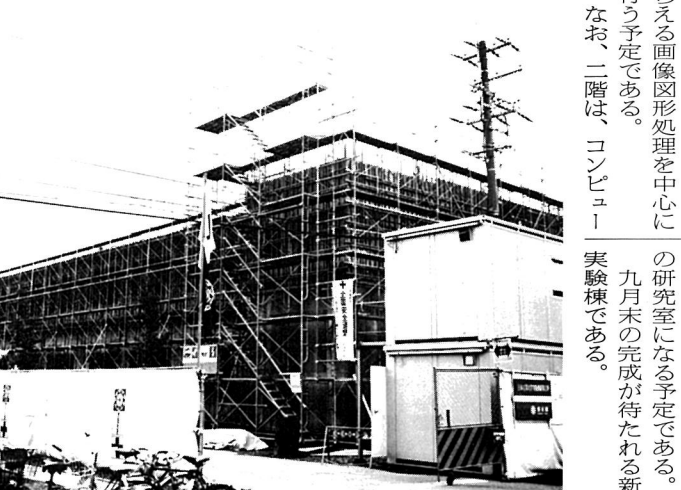
全国工業高等学校長協会が主催する第八回マイコンコンピュータ技術講習会と第五回マシニングセンター技術講習会が、七月二十三日から二十六日まで、本学のマイコン応用実習室と機械工作センターで行われる。続いて、七月二十八日から三十一日まで、関東地区機械工業教育研究会が主催する同様の講習会が行なわれることになっている。

今回の全国工業高等学校長協会のマイコンコンピュータ技術講習会には、北海道・東北・関東・北信越・東海・近畿地区の工業高校の教員が、マシニングセンター技術講習

会には、近畿・中国・四国・九州地区の工業高校の機械系の教員が参加する。

マイコン講習会では、本学の開発したマイコン教育システムの機能説明をした後、段階的に応用技術を修得することになる。

また、マシニングセンター講習会では、基礎的なプログラムの組みかたを、練習問題を課しながら理解させ、マシニングセンターを実際稼働させる、といった講習内容である。これらの講習会は、本学が後援し、毎年、工業高校の教員を対象に行われている。



新実験棟の建設進む

システム工学科

去る四月十一日に地鎮祭が行われたシステム工学科の実験棟の新築工事が熊谷組によって、急ピッチで進んでいる。新実験棟は二階建、鉄筋コンクリート造りで、建物面積は一、〇九二平方メートルである。一階は、主として学生実験に使用されるが、そこでは、ロボット関係の実験とコンピュータ・グラフィック関連の実験が行われることになる。

ロボット関係の学生実験では、ロボットの操作、およびこれを含む作業システムの設計と作業実験ならびにその動作解析などが行われる。設備は、組立ロボット、小型ロボット、知能形移動ロボット、自動搬送車および、これを操作するためのパソコン群からなる。

また、コンピュータ・グラフィック関連の実験では、物体

いつかまた「遊び」について考えてみたいと思っている。机の横には「遊び」「遊びと人間」という本なども用意してある。私の課題の一つである。

かつて私は夏休みを無上の楽しみにしていた。授業が終ると完全に自由な時間があつた。そして、あれもしたい、これもしたいと、仕事は山のようにあつた。夏休みは私の一番忙しいときであつた。この頃は少し違う。からっと晴れることなく、一年中梅雨空が続いている。

ドイツ人は定年を待たずにいる。定年になったら、のんびり遊ぶのだという。旅行は好きなようである。でも年中旅行をするわけにはいきまい。何をして遊ぶのだろう。遊び方が上手なのなら、いつか聞かせてもらいたいと思っている。日本人は働きすぎだと言われている。おそらく仕事が好きなのではなく、遊び方が下手なのであろう。私もたぶんその一人である。だから、遊ぶ時間ができると、遊びについて、などを忙しく考えてしまうのである。



夏休み

学長 三浦 鞆郎

60年度決算
61年度予算

報 告

第十九期決算・第二十期予算が法定の監査を受け、法人理事会・評議員会で決定されました。ここに、財務諸表を公表して、関係各位のご理解とご協力をお願いする次第です。

設備関係支出

放電加工機、疲労試験機、ダイヤモンド合成装置、熱間静水圧加工試験装置、油圧式シャーリングマシン、真空紫外線分光分析装置等を購入しました。

六十一年度予算について

国庫補助の減額等の厳しい状況下ではありますが、本年も教育の充実と研究の振興のための予算を目指して編成されました。また、来年は学園創立八十周年・大学設立二十年にあたり、新たな出発とするため、記念事業・行事が計画されています。

教育研究経費

スーパーミニコンの導入経費、学生経費、卒研費の増額のほか、新たなセンターの設備事業が予定されています。

六十年度決算について

年度内の、全ての収支を表す資金収支計算書と期末における全ての資産と負債の状況を示す貸借対照表を公表しました。

国庫補助金収入

経常経費補助金は、前年比三、五〇〇万の減額となり、帰属収入に占める補助金はピーク時二五・三％でしたが、一六・一％に低下し、財政悪化の要因になっています。

施設関係支出

学生にとって、念願であった台宿棟及び十号館の完工、E1棟の増改築を着手しました。

昭和60年度 資金収支計算書

収入の部		金額	支出の部		金額
学生納付金収入	1,583,519,500	2,643,777,500	人件費支出	1,580,266,556	1,580,266,556
授業料収入	182,200,000		教育研究費支出	472,761,199	
実験研究費	207,693,000		施設関係支出	246,941,900	
施設設備拡充費	670,365,000		設備関係支出	493,391,047	
手数料収入	92,441,048	613,280,000	管理経費支出	121,991,142	613,280,000
寄付金収入	41,411,326		借入金等利息支出	70,802,143	
国庫補助金収入	613,280,000		借入金返済支出	65,260,000	
資産運用収入	173,147,611		その他の支出	448,341,834	
事業収入	0	4,074,100	基本金繰入金	52,370,087	52,370,087
雑収入	4,074,100		基本金繰入金	14,052,075	
借入金収入	28,310,619		基本金繰入金	148,241,368	
学費前受金収入	47,000,000		減価償却費	28,094,182	
その他の収入	1,007,338,750	1,007,338,750	減価償却費	40,000,000	40,000,000
学費前受金収入	96,212,360		減価償却費	60,000,000	
学費前受金収入	96,212,360		減価償却費	105,584,122	
学費前受金収入	96,212,360		減価償却費	105,584,122	
学費前受金収入	96,212,360	△ 947,871,000	学費前受金収入	△ 21,771,851	△ 21,771,851
学費前受金収入	96,212,360		学費前受金収入	△ 21,771,851	
学費前受金収入	96,212,360		学費前受金収入	△ 21,771,851	
学費前受金収入	96,212,360		学費前受金収入	△ 21,771,851	
学費前受金収入	96,212,360	1,269,105,282	学費前受金収入	1,590,243,626	1,590,243,626
学費前受金収入	96,212,360		学費前受金収入	1,590,243,626	
学費前受金収入	96,212,360		学費前受金収入	1,590,243,626	
学費前受金収入	96,212,360		学費前受金収入	1,590,243,626	
学費前受金収入	96,212,360	5,068,227,596	学費前受金収入	5,068,227,596	5,068,227,596
学費前受金収入	96,212,360		学費前受金収入	5,068,227,596	
学費前受金収入	96,212,360		学費前受金収入	5,068,227,596	
学費前受金収入	96,212,360		学費前受金収入	5,068,227,596	

貸借対照表

昭和61年3月31日現在

科 目		金額	科 目		金額
資産の部		6,784,525,120	負債の部		1,568,054,711
固定資産			固定負債		
土地建物	932,284,451		長期借入金	954,760,000	
構築物	2,325,590,960		退職給付引当金	613,294,711	
構築物	317,739,644	2,003,760,406	流動負債		1,167,535,524
教育用機器備品	2,659,177,108		短期借入金	69,210,000	
その他機器備品	22,653,984		短期未払金	21,771,851	
自動車	467,467,873		短期未払金	1,007,338,750	
建設仮勘定	13,591,100	1,647,632,521	基本金の部		8,850,806,453
その他の固定資産	46,020,000		基本金		
電有価証券	1,047,094		基本金		
退職給付引当金	500,000		基本金		
建設引当金	455,146,397	1,150,478,641	消費収支差額の部		△ 1,150,478,641
建設引当金	1,126,034,907		消費収支差額の部		
基本金引当金	148,241,368		消費収支差額の部		
育英基金引当金	142,979,344		消費収支差額の部		
減価償却引当金	40,000,000	1,590,243,626	減価償却引当金		1,590,243,626
減価償却引当金	40,000,000		減価償却引当金		
80周年特定資産	60,000,000		80周年特定資産		
その他の資産	29,811,296		その他の資産		
流動資産		1,590,243,626	流動負債		1,590,243,626
現金預金	1,590,243,626		現金預金		
未収金	41,314,000		未収金		
未払金	16,074,895		未払金		
合計		10,435,918,047	合計		10,435,918,047

海外短期留学語学研修が、夏休みに行なわれる。今年で三回目を迎えるが、留学先はカナダ・バンクーバーのUBC（ブリティッシュ・コロンビア大学）内にあるランゲージ・インスティテュートで八月四日から三週間にわたって英語の研修をする。この間、留学生たちは、バンクーバー市内にあるカナダ人中流家庭に滞在し、生活を共にしながら大いに学ぶことになる。

この短期留学に参加する学生は十七人。学年別にみると、一年生が二人、二年生が五人、三年生が九人、院生が一人、ほか職員が一人参加する。引率者は鈴木寛次助教、藤田則夫教務課主任である。

語学研修は、土・日曜日を除いて、午前中三時間、午後三時間、英語圏での研修や生活を通して、英語の会話力と国際感覚の修得をめざす留学生諸君に、その成果を期待したい。

短期留学（語学研修）

8月3日～8月28日

第十九回 体育祭

若さを燃焼

去る五月二十八日、本学のグラウンドにおいて、体育祭が行われた。当日は、五月晴れの絶好の天気と最高のグラウンドコンディションに恵まれ、若さと若さをぶつけあった。より速く、より高く、より遠くへ競いあったが、綱引き、騎馬戦、百足競争などもあり、ユーモラスな場面では、爆笑がおこり、敢闘場面では、大きな拍手が送られた。

閉会式は、汗をかいた後のさわやかな雰囲気の中で、行われたが、日焼けした顔がある。

各部門の成績は次の通り。

総合優勝 機械工学科
一〇〇M走
一位 塚本 誠（M科）
二位 山中信勝（E科）
三位 須藤昭夫（S科）
四×一〇〇Mリレー
一位 M1aチーム
二位 E1bチーム
三位 M1bチーム
走り高とび
一位 足立憲一（M科）
二位 松尾芳孝（E科）
三位 宮本昌彦（E科）



課外活動成績（団体）	
（サッカー）	春季関東理工系大学サッカーリーグ（一部）………優勝
（ボディービル）	第四十二回関東学生パワフルフティング選手権大会 南郷修次郎（3・E）56kg級………3位 出場決定
（バスケットボール）	第十三回全日本学生バワフルフティング選手権大会 南郷修次郎（3・E）56kg級………4位 出場決定
（卓球）	春季関東学生卓球リーグ（5部）………優勝 入れ替え戦にて4部へ昇格（弓道）
（ゴルフ）	関東大学対抗春季リーグ戦 Eブロック………2位 入れ替え戦にてDブロックへ昇格
（射撃）	埼玉県ライフル射撃大会 内藤 忍（4・E）………優勝 鈴木光明（2・M）………2位 （軟式庭球） 関東理工系大学軟式庭球春季リーグ（3部）………3位 （弓道） 中関東ブロック春季トーナメント戦（団体戦）………3位 上田浩二（2・A）（個人戦）………4位

夏期休暇中の注意

学生諸君は、間もなく長期に亘る夏期休暇に入りますが、この時期は毎年、気の緩みから悲しむべき事故が多発する時でもあります。

特に交通事故の数は、一時減少傾向を示していたにもかかわらず、このところまた増加傾向へと転じています。交通事故は、加害者であれ、被害者であれ、一生を左右してしまうこともある、ということ肝に銘じ、運転中は少しの油断もすることなく、安全を心がけてください。

また、休み中は不規則な生活になりがちです。過去の例ですが、睡眠不足・過労に加えて、飲酒のうへ海に入り、事故を起こすという報告も受けています。無理をしないという原則に立って、健康管理にも十分注意を払ってください。

なお、クラブ等で合宿をする場合には、対外活動届を学生課へ提出してください。緊急事態や万一の事故に対処するため必要です。用紙は、学生課窓口にて用意されています。

第十四回 ヨーロッパ研修

本学のヨーロッパ研修旅行が、今年も八月二十一日から九月十一日まで、二十二日間の予定で行われる。

この研修旅行は、スタートしたのが昭和四十七年ということで、今年では十四回を数える。

この度の研修の団長には、城戸卓男講師（保健体育）が副団長には谷本善彦庶務課主任が決定し、学生課の渋谷龍美主任も同行する。

一行は、アテネを振りだしにロンドンまで、ヨーロッパ各地の代表的地域を訪れるが、特に今年の研修では、ベニスからチューリッヒへの汽車の旅がくりこまれている。

研修の果てに成功を期待したい。

言うまでもなくヨーロッパは、現代文明の出発点である。現在の我々を取り囲むものすべて、その源をたどればヨーロッパに行きつくといっても過言ではない。

建築科の学生ならずとも、アクリリスやサン・マルコ広場、サグラダ・ファミリア等の歴史的遺産に直に触れることで多くのものが得られるであろうし、また、たとえ言葉が通じなくとも、各地の人々との触れあいは、人々との出会いの原点について再考するのにも十分であろうと思われる。

NAMRC

北米生産技術研究会議

村川正夫

5月28日から5月30日迄の日程で開催された標記会議に出席してきた。発表論文は全部で76件であり、国別内訳は米国46件、日本13件、カナダ5件、デンマーク4件、中国、ドイツ各2件、その他英国、ソ連、伊国及びインド）各1件である。この内訳よりわかるように、「北米」という名前が付いていても実際には昔から国際会議として運営されており、今年が第14回（毎年開催）目である。本学からの出席者は大川教授・宮沢講師および小生の3名である。

前述の内訳人数を見て英国からの参加者が少な過ぎることが気になる。英国には本国際会議と同様のMTDR会議があるから米国のこの会議に対する参加者があまり多くないというのは理解出来るが、それにしても同じ英語圏であるのに一件と言うのは少な過ぎると思う。最近サッチャー政権になってから大学に対する研究費援助が極端に減らされていると聞いている。そんなことも影響しているのかも知れない。

提出論文は「実際のナドロ



会場（ミネソタ大学）にて

スレスレーザ加工方法」と温間シェービングによる厚板平面車、はすば歯車製作」の2件であり、スピーカは前者が宮沢先生、後者が小生である。なお、論文申込み数は130件程度でアクセプトされたのが前述の76件であるから、かなり厳選された論文のみが発表を許されたと考えて良い。我々の発表は両方とも司会者が、「Very interesting」と紹介したことからわかるように、好評であった。ただ日本と違

って質問者の自己主張が良い意味でも悪い意味でも大変強いことが印象に残った。本会議で小生の米国留学中御世話になったアビツール教授に再会出来たことは喜びであった。また、会議終了後エル大学を訪問して、同大に留学中の機械工学科玉木助教と再会する事も出来た。大変親切な留学生を送っておられるのを見て、一同安心した次第です。

（機械工学科助教）

IEEE

プラズマ国際会議に出席して

塚林功

五月十九日から二十四日までIEEEのプラズマ国際会議がカナダ中部、サスカトゥーン州のサスカトゥーン市で開催された。私は本学の柳下さん、宇宙科学研究所の中村さんとの共同研究である、イオン波動の変調不安定性の結果を発表するために当地に出かけた。当市へは日本からの乗り入れ便がなく、バンクーバー経由で向った。

バンクーバーは本学の夏期

英語研修地であり、緑に囲まれたゆったりとした住宅地を見るにつけ、英会話修得にチャレンジする学生諸氏のホーム・ステイでの希望と不安に満ちた生活ぶりが目に浮ぶようである。毎度の事ながら不自由な英語での論文発表はいやなもので、学生諸氏の事を思うと出発前からの不安も幾分か和らいでくる。

会議の初日、五月十九日はカナダではピクトリア・ディ

と呼ばれる祝日で、夕方になると家族総出で街の中心地の広場にピクニック気分が集り始める。カナダは移民、亡命者に人気のある国で、人混みに混じり歩いていても、すれ違ふ人誰一人国籍を詮索するふうもなく、外国に來ているという緊迫した孤立感をいだかせない多民族社会である。

私の発表日の五月二十日の夕方、当市で最も古いお城のようなホテルの庭のBanquet

と呼ばれる会議の宴会が催されたと家族総出で街の中心地の広場にピクニック気分が集り始める。カナダは移民、亡命者に人気のある国で、人混みに混じり歩いていても、すれ違ふ人誰一人国籍を詮索するふうもなく、外国に來ているという緊迫した孤立感をいだかせない多民族社会である。

私の発表日の五月二十日の夕方、当市で最も古いお城のようなホテルの庭のBanquet

上海周辺の

居住空間に関する調査

伊藤庸一

今回の学術調査は、上海・同済大学趙副教授と大阪市立大学、近畿大学の先生に私の六人編成で行なわれた。以下にその一例、上海市街より車で約一時間の嘉定区にある兼業農家、孫さんの住宅を紹介する。

孫さんは、八十才になる老夫婦、二十五才の息子夫婦、高校生の娘の計七人、日本流に言えば三世同居家族である。（中国の、特に都市部では大変な住宅難で、このような大家族同居は珍しいことでは無い。親族でない家族が、一軒に同居する例も少しは見られる。）

住まい方を図で説明すると、一階東側に老夫婦が使う房間（ファンジェン）、二階西側に孫さん夫婦と娘、東側に息子夫婦が使う房間が取られており、間取りから夫婦の単位性の強さを知ることができる。いずれの房間も約30㎡（約十八帖）の広さ、日本の寢室の倍以上の大きさで、量は少なくとも質は確保されており、感心させられる。

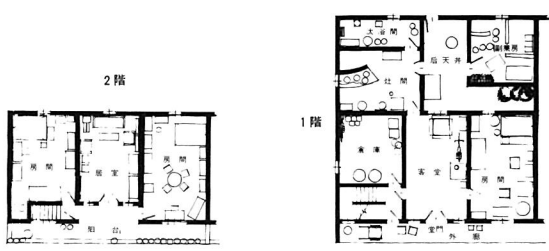
老夫婦室は土間の床にしっかりと、古風な作りのベットの、一方息子夫婦室はカーペット敷きの床にクロス張りの

壁、シンプルで華やかなベットの、孫さんの部屋はこの中間のスタイルと、世代に応じて時代を反映した住まい方、つくり方が見られる。

一階中央は客堂（クワンテン）と呼ばれ、食事、団らん、接客、婚葬善事（日本流に言えば冠婚葬祭）など、家族の集まりと共に地域社会との接点となるスペースとして用いられる。二階中央は居室（ジュウシー）と呼ばれ、公式の接客やテレビを見る時に用いられる。客室が機能的に分化した部屋、として捉えることができる。

今回の調査では、伝統的な院子（ユアンツー）と呼ばれる中庭を囲んで部屋が並ぶ三合院、四合院は、すっかり過去の様式となっていることを実感したが反面、客室や房間など、住まい方、つくり方に伝統の継承と生活の現代的な展開を伺うことができ、大きな成果を得た。

知識として、建築学で言えば高床住居、仏教建築、奈良・京の都等々、現在に到る日本の基層文化の形成にアジア諸国、なかでも中国が大きく関わっていることを理解していても、現実には関心度はまだ



まだ低い。今後の学術的、文化的交流が強く望まれる。

（建築学科助教）

潮市に住んでおられると大変懐しがられていた。広瀬さんは、今回のこの会議のため三年前から準備をされ、ここ三年間自分の研究はほとんどできなかつたといわれていた。

広瀬さんの会議を無事やり終えつつある安堵感と疲労感の交じった表情を見つつ、私の発表準備での苛立ちなどは、広瀬さんのこれまでの心労に比べると取るに足りない些細な

事だったとはずかしく思った。カナダを去る頃になってようやく、バンクーバーでの入国手続で動・植物は持っているか、種は、のミ（土？）はと執拗に質問された意味が分かって始めた。車の運転中、ごみ捨てに対するハンマーと二百ドルの罰金の道路標識をよく見かけたが、日本人から見ると太平洋ともおぼしき国土の真中に、無人だからと言って気

安くごみを捨てられると、逆に永久にそのごみは回収される事はないだろう。同時に不意に動・植物類を持ち込まれると、それらを一本一本摘み取る事は不可能で、広大な北国の森と湖の大自然が数年で崩壊するだろうと、無限に続く無人の道路を運転しつつ思いあつた。

（教養科助教）

工学部 募集人員

機械工学科(200)		電気工学科(200)		建築学科(200)		システム工学科(120)	
		特 別 奨 学 生 入 学		推 薦 入 学		一 般 入 学	
出 願 期 間	9 月16日～ 9 月30日			11月 1 日～11月15日		1 月10日～ 2 月13日	
試 験 日	10月15日（面接）					2 月15日(筆答)・16日(面接)	
合 格 発 表	10月20日			11月21日		2 月21日	
入 学 手 続				第 1 回 目 12月10日まで 第 2 回 目 1 月31日まで		2 月28日まで	
選 考 方 法	第 1 次 審 査 書 類 審 査 第 2 次 審 査 面 接					調査書、筆答・面接による総合審査 筆答科目 英語・数学・志願学科 	

大学院 募集人員

機械工学専攻（８）		電気工学専攻（８）		建築学専攻（８）			
		推 薦 入 学 募 集		一 次 募 集		二 次 募 集	
出 願 期 間		9 月10日～9 月24日		10月 1 日～10月11日		2 月21日～3 月3 日	
試 験 日				10月13・14日		3 月5・6 日	
合 格 発 表		9 月29日		10月18日		3 月10日	

'87

学生募集要項